

公立学校情報機器整備事業に係る各種計画

端末整備・更新計画

ネットワーク整備計画

校務DX計画

1人1台端末の利活用に係る計画

令和7年3月

今治市教育委員会事務局

教育大綱推進課・学校教育課

令和7年3月24日

【愛媛県今治市】
端末整備・更新計画

| | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 |
|---------------------|--------|---------|--------|--------|--------|
| ① 児童生徒数 | 9,440人 | 9,334人 | 9,264人 | 9,004人 | 8,695人 |
| ② 予備機を含む整備 上限台数 | | 10,734台 | | | |
| ③ 整備台数 (予備機除く) | | 9,334台 | | | |
| ④ ③のうち基金事業 によるもの | | 9,334台 | | | |
| ⑤ 累積更新率 | | 100% | 100% | 104% | 107% |
| ⑥ 予備機整備台数 | | 451台 | | | |
| ⑦ ⑥のうち基金事業 によるもの | | 451台 | | | |
| ⑧ 予備機整備率 | | 4.8% | | | |

(端末の整備・更新計画の考え方)

令和2年度に全児童・生徒に貸与を開始した1人1台端末について、令和7年度中にリプレースを行う。経常的な故障が増加してきている点ならびに、バッテリー劣化により連続使用時間が減少している点が懸念されており、更新により安定した学習環境の確保をすることを主たる目的とする。なお、更新作業に当たっては授業や学習活動への影響を最小限に収めるよう効率的に行う。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数

令和2年度整備分 10,788台

○更新端末利活用(リユース)

- ・学習アシスタントなど教員用タブレット配布対象の拡充や、予備機としての再利用
- ・オンライン授業用端末としての再利用
- ・図書館・公民館・児童クラブ等での再利用

など、利用可能なものは再利用を中心に活用法を検討する。

○処分方法・端末データの消去方法

- ・リサイクル処分事業者へ委託する。(故障分)

○スケジュール(予定)

- ・令和7年4月～ 公共施設等での活用希望調査
- ・令和8年1月～ 端末更新
- ・令和8年2月～ 再利用施設・リサイクル業者への引き渡し

令和7年3月24日

【愛媛県今治市】
ネットワーク整備計画

1. ネットワーク速度の現状

文部科学省が2024年4月26日に公表した「学校ネットワーク改善ガイドブック」に示された学校規模ごとの当面の推奨帯域を満たす学校は、令和7年3月現在13校であり、総学校数に占める割合は31.7%である。

なお、本市の小中学校においては、全体のダウンロードスピードは平均190Mbps、アップロードスピードは平均270Mbpsを確保しており、オンラインによる学習活動に支障は出ていない。

2. ネットワーク速度の確保に向けた取組

(1) インターネット通信速度の改善

本市においては、推奨帯域を満たしていない理由を特定できていることから、外部機関によるネットワークアセスメントは行わない。

令和6年度NTTフレッツ光エリア拡大にともない、岡村小学校・関前中学校のローカルブレイクアウト環境の構築を行い通信環境改善がなされた。令和7年3月時点で旧今治市内の大部分で10Gbpsベストエフォートサービスの開始が確認できたことから通信契約の見直しを進めていく。

(2) 校内通信機器更新等

導入後4年が経過し次第に経年劣化の心配が高まっていく校内通信機器についての更新を計画する。インターネット通信速度改善後、改めて学校全体の通信状況調査を行い更新機器の仕様に反映させる。また、通信状況調査結果をもとに校内通信網の改修やアセスメントの実施などの対応策を検討していく。

3. 改善スケジュール

| | |
|--------|------------------------|
| 令和6年度 | 岡村小・関前中通信環境改善 |
| 令和8年度 | 旧今治市内小中学校通信回線等契約変更（予定） |
| 令和10年度 | 校内通信機器更新（予定） |

【愛媛県今治市】
校務DX計画

1. 次世代校務DX環境の構築

本市の教育ネットワークは令和元年度に仮想ネットワークを構築し、インターネット接続可能なものと校務支援システムなど機密情報へアクセス可能な閉鎖域を分離していた。令和6年度にクラウド環境の利用を一部取り込み、ゼロトラスト型のネットワークへ再構築することで教育データの利活用を行いやすい環境へと移行している。

また、現在オンプレミス型の校務支援システムを使用しているが、次回サーバー機器等の更新時期（令和10年度予定）には次世代の校務支援システムへ移行を行い、今治市教育ネットワークシステム基盤全体をフルクラウド化することで小中学校における業務の効率化を図っていきたい。

2. ペーパーレス化の促進

(1) 学校と保護者間の連絡ツール

小学校では38%、中学校では21%の学校において欠席連絡にマチコミ等の連絡ツールを、また、休日の緊急連絡用としてHP上に緊急連絡フォームを作成するなど、業務の改善は進みつつある。各校の実態に応じてこれからも改善を行っていききたいと考える。

(2) FAX・押印の廃止

FAXについては災害時・緊急時の報告以外は、段階的に廃止していく方向である。押印についても検討中である。

(3) 汎用クラウドツールの活用

グーグルワークスペースの効果的な使い方が各学校で浸透しつつあり、フォームを使った保護者アンケートやスプレッドシートによる健康診断の進捗状況の共有など、各学校で効果的な使い方を工夫・実践している。今後は成功事例を各校で共有し、さらに深めていく。

3. 個人情報に関する周知の取組

教育情報のクラウド化に伴い、個人情報に関する様々な規定に対する専門的な知見を各教員に周知する必要が出てきている。著作権や個人情報管理規定等の研修を通じてICTを活用するすべての教員に周知する。

【愛媛県今治市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

教師と児童生徒の温かい人間関係を基礎としつつ、電子黒板、タブレット等のICT機器、アナログ的な学習手段、そして教員の持ち味、各校の特色がベストミックスされたICT環境の構築を目指す。その中で、児童生徒がそれぞれの機器やコンテンツの特徴を正確に把握し、場に応じた適切な使い方を学ぶことを通して、日々進化する様々なデジタルコンテンツを必要に応じて主体的に活用する能力を育成する。

2. GIGA第1期の総括

愛媛の教員が身に付けるべきICT活用スキルチェックに関する本年度の調査結果ではすべての項目において3以上（5段階）と答えた人数割合が小学校81.2%、中学校89.4%と高い数字を出しており、各学校ともICTに関する技能や意識が高まっている。また、デジタル教科書や授業支援ソフト、ドリルソフトに関する使用法や活用法について、各種研修会や研究授業で各教員が練り合うことにより、個別最適な学習環境が整いつつある。さらにICT支援員が各校で研修を行ったり、ICTが得意な若年教員と、ICTが苦手であるが授業力のある熟年教員が協力し合う体制をとっている学校があったりするなど、ICTのサポートと授業力向上の両面に良い効果が出ている。授業で使用する教材づくり等、これまで用意していた膨大な資料や機器のほとんどがタブレットと電子黒板で完結できるようになり、授業に関する教員の負担が軽減されている。また、行事の進捗状況など、個人情報に抵触しない範囲で情報の共有化ができるなど、スムーズな学校運営に寄与している。

GIGA第1期は学校現場に大きな変革をもたらしたが、現場の教員が一致団結して新たな取り組みに向き合うことで、着実な成果を上げることができた。

3. 1人1台端末の利活用方策

ドリルソフトやデジタル教科書の導入により、家庭学習や授業の場面において個別最適な学習を実施することが可能になっているので、この取組を継続する。

また、CBT等を積極的に活用することにより教員の負担軽減を図る。

さらに、自己評価システムなど、個人の意見や状況を効率よく把握する手段として1人1台端末を活用していくことにより、1人1人を大切にした授業づくりや集団作りを行う。